



す が お

No.50

養護老人ホーム
松楓園 情報誌

新年によせて



えております。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

さて、昨年、日本は3年ぶりに民主党から自民党に政権が変わり、米国、中国、韓国、台湾、フランス、メキシコ、ベネズエラ、ロシアなどの主要国で選挙があり、政権交代も有りました。

中東のみならず、尖閣諸島を巡る日中、日韓の緊張、北朝鮮情勢の緊迫化など東アジアにおける地政学的なリスクを感じざるを得ない年でした。

経済面でも欧州経済の回復の遅れ、中国経済の低迷から世界経済の減速感が

強まり、不透明感が増した一年でした。

その中で、昨年も松楓園は大きな事件 事故も無く比較的平穏な一年を過ごせたのではないかと思っております。まずはこうして無事に新しい年を迎えることができたことを感謝申し上げます。

今年も大流行が心配されたインフルエンザやノロウイルスの発生も、早い時期に利用者の皆様のご協力をいただいで感染を防ぐ為のいろいろな予防対策を実施したことで、今まで発生ゼロで来る事が出来ました。今後も気を緩めることなく引き続き注意していきたいと考

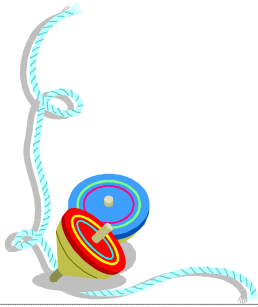
さて、養護老人ホームの運営は、平成18年から国の予算で一般財源化され、施設の目的は利用者の社会的自立を求めるとして「中間施設」として位置づけられました。また、平成23年10月には高齢者の居住の安定確保に関する法律「いわゆる高齢者住まい法」が施行され、国土交通省と厚生労働省の共管によるサービスキ高年齢者向け住宅制度が始まりました。

今後養護老人ホームが生活支援施設としての役割を担うためには、利用者への重度化や精神疾患への知識の確立、医療との連携を踏まえたサービスの専門性強化が求められます。

松楓園は、今年の四月で創立58年を迎えます。

創立百周年に向かうため
には、私たち職員一人ひと
りの成長が大切だと考え
ております。単に知識やス
キルを高めるだけでなく、
一人ひとりが「高い志」と
「高潔な倫理観」を持ち、
これまで以上に目線を高
く、視野を広げて、利用者
の皆様の声を正しく受け
止めて、その立場に立った
サービスの提供」に取り組
むことが何よりも大切だ
と思っております。

施設長 馬場義郎



利用者新年会



新年初顔合わせの行事となる「利用者新年会」を一月九日に松楓会ホールで開催しました。当日は、併設の特別養護老人ホーム「和敬園」「コスモホーム」の施設長にも参加をしていただき、新しい年を迎えた喜びを盛大にお祝いすることが出来ました。



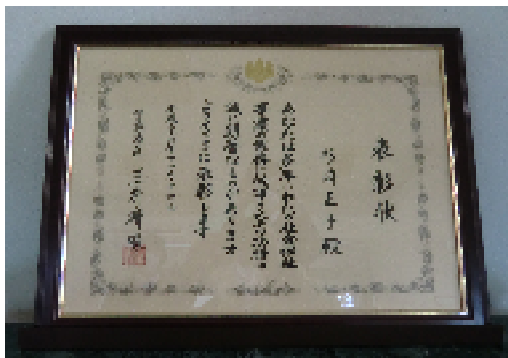
お 年



年 月 日
お 月 日
す が

新しい年を迎え

社会福祉功労者 厚生労働大臣表彰



併設の特別養護老人ホーム和敬園 杉崎正子施設長が社会福祉功労者 厚生労働大臣表彰を受賞され、利用者新年会の席上で花束を贈呈して、利用者・職員でお祝いをさせて頂きました。



手作り 絵馬

年

お

年 す



新しい年に願いを込めて



新年を迎え、四日、七日に拝島大師へ初詣に出かけてきました。本堂に向かう参道には沢山の屋台が並び、大勢の参拝客で活気に溢れ、賑やかで楽しい時間を過ごす事が出来ました。利用者の方々も、大きな鐘を鳴らし、それぞれに願いを込めて参拝をされていました。参拝後には境内を散策して、屋台での買い物を楽しみ、新しい年を迎えた喜びを満喫してきました。

利用者投稿コーナー



今回は、冬・正月などにちなんだ
利用者の皆様の投稿を頂きましたので
ご紹介させていただきます。

『下駄スキー』

斉藤 定子様

小さい頃のお正月は雪々の
毎日で屋根から降ろす雪で道
路が埋まってしまい、電柱の
電球が足元にあると言う具合
でした。外での遊びは下駄に
竹を張った下駄スキーしかあ
りません。滑って転んでモン
ぺのお尻が濡れていつも叱ら
れていたものです。家の中で
はコタツに入ってみかんや落
花生、お餅を食べていました。
東京に来てからは忙しい毎日
で羽根付きを二、三度やった
きりです。
この頃は安穩な暮らしをさ
せて頂いています。皆様のお
かげだと思いい感謝していま
す。

『正月飾り』

鵜澤 美智子様

私は初めて作品を寮母
さんに教えて頂き、小さな
紙を重ね合わせて作りま
した。作品が正月飾りに成
って、美しい姿を現わし本
当に嬉しく感謝でいっば
いです。寮母さん有難うご
ざいました。



『我が家の雑煮』

西端 定枝様

正月三が日に祝膳として食する雑煮はい
ともあっさりとしたお椀に過ぎない、京都
の白味噌椀、鹿児島の大老の椀等色々懐
かしい味の物は多いけれど、東京味と言っ
て、いる我が家では小松菜、本鰹節昆布等
がお節料理のあとに運ばれてくるのが少々
御酒で赤らめた顔で“これぞ雑煮”と美味
しく思いました。
この日ばかりは椀の中に大森の知る人ぞ
知る“守半”の焼海苔を餅で巻き付けなが
ら舌鼓を打つ時が一番と今でも微笑がこぼ
れます。

俳句・川柳・短歌 作品集Ⅰ

小林 栄吉様

北風に

落葉くるくる

くもの糸

クリスマス

馳走の山を

目が食し

去る年の

ことが半ばに

暮て行き

ベートーベンの 交響曲第九に寄せて』

杉山 とめ子様



題名のない音楽会」は日曜日朝九時に五チャンネルで放映されています。この日は佐渡裕氏による指揮で始まり、ディールームで聴いていました。ああ、もう今年も暮れの第九の季節か、一年は早いなあ」とベートーベンの交響曲第五「運命」と第九「歓喜の歌」は日本の巷では風物詩の如くよく親しまれ演奏されている。

ここあきる野市でも十二月二三日にきららホールで演奏会があるとの事で、三、四人の方と行くつもりでしたが一足先に行く前にして演奏を聴く事が出来ました。ラッキーだったのでそちらの方はキャンセルしました。

数年前に脳梗塞と脳出血を患った私は寒い日の外出は禁止されていた。天気予報ではホワイトクリスマスになるであらうとなっていた。私は昭和三九年に結婚し五十年に主人を亡くしましたが出会った頃よくこの「題名のない音楽会」を聴いては談笑していた事を思い出しました。



この曲は第一次世界大戦中日本で捕虜になっていたドイツの人たちが当時徳島の板東俘虜収容所で歌ったのがこの「歓喜の歌」だったそうです。

「歓喜の歌」の原詩はシラーの傑作です。この歌の旋律は雄大で力強いので私も大好きです。またベートーベンは世界各国の民謡を学んでいたのので、その形式に基づいて作曲した民衆の歌であったそうです。

だから人々の心を魅了するのだと想うのです。“苦悩を突き抜けて歓喜へ”ベートーベンは自分が聴力を失い乍ら苦難に打ち勝って作曲したこの第九を嵐の先に光明を探し続ける人生の精神闘争に似たものかもしれない。それがこのドイツの捕虜たちに歓喜を与えたのだと思います。来年はどんな出会いがあるのか楽しみにしています。



俳句・川柳・短歌 作品集Ⅱ

青木 治世様

～短歌～
新年を
祝う門辺に立たずめば

遠方彼方に真白富士も
～俳句～
聡明な 心で対話 年始め

～川柳～
森阪 ヤエ様

居ながらに
拝むしあわせ 初日の出
日輪の浮かぶ初湯に
浸りけり



